

歯 止め 歯 医者さんで検診します 放置、悪化に 県歯科医師会

病気の進行が早いとされる舌や歯茎にできる「口のがん」を早期に発見しようと、県内の歯科医院約九百カ所が二月から「口腔(こうくう)がん」検診を受け入れる。県歯科医師会の呼び掛けを受け、会員医院が検

診業務を行う。口腔がんはあまり知られていないため、患者が口内炎と間違えて放置し、悪化するケースが多い。歯の治療がなくても最寄りの歯科医院でチェックし、迅速な治療開始を目指す。

共通手引 作成 2月から900カ所

検診は口内炎が治りにくいなど、主に口に違和感がある人が対象。受診したい人は会員の医院で、通常診療と同じように申し出る。

色やしこりなど十三項目に異常がないかを目視や触診で調べる。がんの疑いがあると判断した場合、歯科医師会が指定した協力病院を紹介する。

の検診項目について理解しているため、紹介状から治療の緊急度などをスムーズに判断できる仕組みだ。検診費用は保険対象で、自己負担が三割の人で初診でも千円弱で済むという。

検診のポイントなどの研修を行っている。これまでも歯科医が歯の治療で訪れた患者の口内を見て、がんの兆候を発見することはあった。しかし、がん検診だけを目的に歯科医院を訪れる患者はほとんどいないという。

奥羽大歯学部口腔外科学の高田訓教授は「治療開始が遅れば、手術後に口を使えなくなるなど患者のダメージは大きくなる」と指摘。その上で「身近な歯科医院で気軽に検診を受けられるようになれば早期発見につながる」と期待している。

口腔がん

歯科医師会は全県共通マニュアルを独自に定めた。舌や歯肉の変

属、奥羽大歯学部付属、寿泉堂綜合、いわき市立総合磐城共立、会津中央の五カ所。病院側は、あらかじめ歯科医

歯科医は本来口腔がんを診療できる資格や知識がある。歯科医師会は受け入れに向け、

項目にもないため、病状が進行してから発見

されるケースが多いのが実情だ。奥羽大歯学部口腔外科学の高田訓教授は「治療開始が遅れば、手術後に口を使えなくなるなど患者のダメージは大きくなる」と指摘。その上で「身近な歯科医院で気軽に検診を受けられるようになれば早期発見につながる」と期待している。

※口腔がん 舌にできる「舌がん」が最も多い。他に歯茎の「歯肉がん」、舌と歯茎の間の「口腔底がん」、頬の内側の粘膜にできる「頬粘膜(きょうねんまく)がん」などがある。全国で年間約3万4千人が発症し、約7千人が死亡しているという。平成21年の県統計では県内で94人が死亡している。